

■相場アンケート

愛知淑徳大学教授 真田幸光氏

	日経平均	時期	予想の背景、ポイント	注目銘柄・セクター
高値	25,000	年後半	欧州情勢の悪化とその後の改善、北朝鮮リスクの顕在化と米中露関係	西濃運輸と金融株
安値	18,000	春		

	NYダウ	時期	予想の背景、ポイント	注目銘柄・セクター
高値	30,000	年後半	欧州情勢の悪化	ゲーゲルとアマゾン
安値	20,500	春		

	円(対ドル)	時期	予想の背景、ポイント	ドルや円以外に注目する通貨
高値	110	春	日経平均株価動向	人民元の国際化進展プロセス
安値	120	年末		

クレディ・アグリコル証券会社 森田京平氏

	日経平均	時期	予想の背景、ポイント	注目銘柄・セクター
高値	25,000	年半ば	・2017年から2018年にかけての景気の減速 ・2018年後半の内外の政治の視界の悪さ	
安値	18,000	年末		

	NYダウ	時期	予想の背景、ポイント	注目銘柄・セクター
高値	27,000	年半ば	・2018年後半に米国中間選挙に向けたトランプ政権の苦戦 ・Fedの利上げは2018年は2回 ・税制改革の効果	
安値	22,000	年末		

	円(対ドル)	時期	予想の背景、ポイント	ドルや円以外に注目する通貨
高値	105	年末	・2018年後半に米国中間選挙に向けたトランプ政権の苦戦 ・Fedの利上げは2018年は2回 ・日銀の金融政策は変わらず	ユーロ
安値	117	年半ば		

JPモルガン証券 阪上亮太氏

	日経平均	時期	予想の背景、ポイント	注目銘柄・セクター
高値	26,000	11	内需の拡大が2018年を通して徐々に顕在化し日本株を押し上げると思われる。また、世界的なインフレ率と長期金利の上昇が年後半に本格化し、日本株はバリュー株中心に世界株をアウトパフォームする見込み。	金融、小売、機械
安値	21,000	2		

	NYダウ	時期	予想の背景、ポイント	注目銘柄・セクター
高値				
安値				

	円(対ドル)	時期	予想の背景、ポイント	ドルや円以外に注目する通貨
高値	112	12	主要国の中央銀行のうち、FRBのみが金融政策正常化を1Hに進めるとみられ、USDは市場が利上げを急速に織り込む中、円を含むその他主要通貨に対して上昇すると予想。	
安値	115	3		

ソニーフィナンシャルHD 尾河眞樹氏

	日経平均	時期	予想の背景、ポイント	注目銘柄・セクター
高値	25,000	9	ゴールドロックス＝適温経済は来年も続き、リスクオンも継続するとみている。日米の景気が良好ななか、ドル円も堅調に推移し9月ごろに向けて120円台を試す展開となろう。為替レートも安定するなか、株価も上昇か。	IT関連→フィンテック、IT化の波
安値	21,000	1		

	NYダウ	時期	予想の背景、ポイント	注目銘柄・セクター
高値	27,000	9	ゴールドロックス＝適温経済は来年も続き、リスクオンも継続するとみている。日米の景気が良好ななか、ドル円も堅調に推移し9月ごろに向けて120円台を試す展開となろう。為替レートも安定するなか、株価も上昇か。	金融→トランプ政権の金融規制緩和が後押し
安値	22,000	1		

	円(対ドル)	時期	予想の背景、ポイント	ドルや円以外に注目する通貨
高値	110	1	減税とインフラ投資などで18年は米国のインフレが極めて緩やかながら上昇する可能性があるともみている。米長期金利も遅ればせながら上昇し、9月頃に120-23円トライか	ユーロ。今年は予想外に対米ドルで上昇したが、来年は反落する可能性せいも？
安値	123	9		

第一生命経済研究所 永濱利廣氏

	日経平均	時期	予想の背景、ポイント	注目銘柄・セクター
高値	25,000	5月	円安・海外株高に加え、好調な春闘により前半高となるも、日銀のイールドカーブコントロール修正や2019年10月の消費増税決断で後半安。	
安値	22,000	12月		

	NYダウ	時期	予想の背景、ポイント	注目銘柄・セクター
高値	26,000	5月	好調な米経済や減税インフラ投資効果期待などから前半高となるも、ドル高による景気減速や中間選挙で米議会のねじれ発生により後半安。	
安値	24,000	12月		

	円(対ドル)	時期	予想の背景、ポイント	ドルや円以外に注目する通貨
高値	110	12月	年前半はインフレ加速による米金融政策正常化織り込みの強まり等によりドル高も、後半は日銀の出口観測の高まりで円高に転じる。	人民元： 中国金融規制強化の影響どう出るかに注目。 ユーロ： マイナス金利解除観測が出るか注目。
安値	120	5月		

大和証券 壁谷洋和氏

	日経平均	時期	予想の背景、ポイント	注目銘柄・セクター
高値	27,000	12月	国内企業は18年度、連続過去最高益更新、EPSで1割程度の増益を見込む。予想PERは15倍から世界平均の16倍台への拡張もありえる。	電気機器 機械 化学 銀行 商社
安値	21,000	5月		

	NYダウ	時期	予想の背景、ポイント	注目銘柄・セクター
高値	27,000	12月	減税による景気刺激で、好調なファンダメンタルズが継続。一方で、長期金利の上昇によって、バリュエーションに切り下げ圧力が働く可能性も。年間を通じて派手さのない株価上昇を予想。基本は高値更新のシナリオ。	IT 金融 エネルギー 資本財
安値	23,500	2月		

	円(対ドル)	時期	予想の背景、ポイント	ドルや円以外に注目する通貨
高値	108円	5月	日米の金融政策の方向性の差に鑑み、米ドル円は緩やかなドル高円安を予想、年末に向けて1ドル120円方向へ。	ユーロ
安値	123円	12月		

ニッセイ基礎研究所 井出真吾氏

	日経平均	時期	予想の背景、ポイント	注目銘柄・セクター
高値	25,000	12月	年初は米国株の下落や北朝鮮問題などを意識して一旦下落するも、業績改善(5~8%程度)により実力水準が25000円程度に上がる。中間決算で通期の増益がほぼ確実視されると市場が過熱しなくても25000円まで上昇。	輸出関連(機械、精密、電子部品) 金融(メガバンク、保険)
安値	22,000	1月		

	NYダウ	時期	予想の背景、ポイント	注目銘柄・セクター
高値	25,000	1月	税制改革法案が決定すると材料出尽くしで一旦調整か。下落前の水準が割高なので、年末までに株価が回復するのは難しい。	
安値	22,000	1月		

	円(対ドル)	時期	予想の背景、ポイント	ドルや円以外に注目する通貨
高値	110円	1月	米長期金利が徐々に上昇するにつれて円安が進む。ただし、金利・ドルとも大幅上昇は期待できない。	
安値	117円	12月		

日本総合研究所 湯元健治氏

	日経平均	時期	予想の背景、ポイント	注目銘柄・セクター
高値	23,800	10月	企業業績は着実に改善、増収・増益基調が持続、米国株高、円安・ドル高基調が相場を押し上げ最大のリスク要因である米朝開戦リスクが高まる5月頃に一旦、株価は急落も次第に安定取り戻す	自動車、電機、機械
安値	21,800	5月		

	NYダウ	時期	予想の背景、ポイント	注目銘柄・セクター
高値	26,000	10月	米国企業業績は堅調を維持、FRBの利上げも年2回に止まり、秋頃には打ち止め感強まる。長期金利の上昇も小幅に止まる。年央にかけて、トランプ政治リスク、米朝開戦リスクの高まりが意識、相場は一旦下落もその後安定を取り戻す	金融、IT、ヘルスケア
安値	23,500	5月		

	円(対ドル)	時期	予想の背景、ポイント	ドルや円以外に注目する通貨
高値	107円	5月	3月から5月にかけて、イタリア総選挙、米朝開戦リスクが意識、円高・ドル安へ、その後、市場が安定を取り戻すにつれて、徐々に円安・ドル高傾向が明確化	人民元、ドル高につれて人民元安が再び進む可能
安値	118円	10月		

ブーケ・ド・フルーレット 馬淵治好氏

	日経平均	時期	予想の背景、ポイント	注目銘柄・セクター
高値	24,000	6月	下記の通り、目先は米国株、米ドル相場の調整を予想。日本発の悪材料はないが、日本株はそれに巻き込まれる。その後は、企業収益の増加に沿った、「真の業績相場」(2017年はまだそうではない)入り。上昇率は前半が大きく、後半は高値持合いに近いイメージ。	世界経済回復に伴う、設備投資・建設投資の拡大は続き、資本財(安川電機、小松製作所)は長期的に中心セクター。内需にも目が向かい、百貨店、ドラッグストア(ツルハなど)も株価上昇へ。
安値	19,000	1月		

	NYダウ	時期	予想の背景、ポイント	注目銘柄・セクター
高値	26,000	6月	米国株は、法人減税を含めても、買われ過ぎ。その調整のきっかけは不透明だが、トランプ政権はさしたる成果が出ず、政治が株価の足を引っ張るか。中東情勢の不安定化によるエネルギー価格上振れも要注意。米国経済自体は緩やかな回復続き、短期調整後の株価は緩やかに上昇、年後半は高値持合い。	
安値	21,000	1月		

	円(対ドル)	時期	予想の背景、ポイント	ドルや円以外に注目する通貨
高値	105円	1月	年の早いうちに、①政治要因(トランプ政権の政策行き詰まり、あるいはロシアゲート)、②買われ過ぎの株価の大幅調整などにより、米ドルは対円で下落を予想。その後は米国経済の緩やかな回復や、連銀の金融緩和縮小などを反映して、米ドルの対円相場は持ち直し(円は下落)へ。	ユーロ圏の景気持ち直しやECBの緩和縮小によるユーロ相場の上昇や、世界的な景気回復に伴う工業用原材料価格の上昇見込みから豪ドルの上昇を予想。
安値	118円	12月		

法政大学大学院教授 真壁昭夫氏

	日経平均	時期	予想の背景、ポイント	注目銘柄・セクター
高値	25,000	4月	海外経済の好調さに支えられ、前半は国内景気が回復基調を維持する可能性がある。それが株価を支える。その後は徐々に、世界経済の回復ペースが鈍化する可能性がある。	電子部品、素材、IT
安値	20,000	11月		

	NYダウ	時期	予想の背景、ポイント	注目銘柄・セクター
高値	26,000	5月	同上	FANGなどハイテク株、銀行
安値	21,000	11月		

	円(対ドル)	時期	予想の背景、ポイント	ドルや円以外に注目する通貨
高値	107	11月	緩やかな米国の景気回復が3月の利上げ予想を高めるだろう。その後は徐々に景気のピークアウト懸念が高まり、ドルの上値は重くなりやすい。	人民元、ユーロ、ポンド
安値	115	3月		

三井住友アセットマネジメント 市川雅浩氏

	日経平均	時期	予想の背景、ポイント	注目銘柄・セクター
高値	25,000	10-12月期	来年も良好な投資環境が続くと思われ、日本株はもう一段の業績改善を織り込んで水準を切り上げる展開を予想。	電気機器、サービス業、その他製品(ゲーム)、化学、機械、銀行業
安値	21,700	1-3月期		

	NYダウ	時期	予想の背景、ポイント	注目銘柄・セクター
高値	26,500	10-12月期	バリュエーションの拡大余地は限定的だが、税制改革によって堅調な米企業業績が更に押し上げられる可能性があり、米株は上値を試す展開を予想。	FAANG銘柄、銀行、自動車
安値	23,300	1-3月期		

	円(対ドル)	時期	予想の背景、ポイント	ドルや円以外に注目する通貨
高値	108	1-3月期	日本では日銀が現行の政策を維持する一方、米国では物価の低位安定が続き、FRBが年2回の利上げは行うと予想。日米金利差の拡大ペースは緩やかで、ドル高・円安の動きも限定的に。	ユーロ、英ポンド、人民元
安値	120	10-12月期		

UBS証券 青木大樹氏

	日経平均	時期	予想の背景、ポイント	注目銘柄・セクター
高値	23,600	4	企業収益について、現在の高すぎる期待の賞味期限。4-5月以降、現実との乖離が埋まることで株価は低下する。また、9月には企業収益の高すぎる期待が修正されるとともに、11月の米国中間選挙に向けた懸念が台頭する。	省力化投資が進む中、機械セクター。また、米国の金利上昇と国内インフレ率の上昇によって恩恵を受ける銀行セクター。
安値	21,500	9		

	NYダウ	時期	予想の背景、ポイント	注目銘柄・セクター
高値	25,970	6	年後半は中間選挙に向けた懸念が台頭しやすくなるが、年中ごろまでは好調な企業業績が相場をけん引する。	企業の支出拡大により恩恵を受けるテック、機械セクター、税制改正や人口動態の変化の恩恵を受けるヘルスケアセクターをオーバーウェイトとしている。
安値	23,300	9		

	円(対ドル)	時期	予想の背景、ポイント	ドルや円以外に注目する通貨
高値	112	9	6月に向けては米国10年金利の上昇に合わせたドル高円安が見られるが、その後米国中間選挙を控えたリスクオフ。また、9月には米国10年金利が6月のピークから低下して2.4%程度となる。	ユーロドル、ブラジル・リアル、トルコ・リラ
安値	118	6		

楽天証券 土信田雅之氏

	日経平均	時期	予想の背景、ポイント	注目銘柄・セクター
高値	24,500	3月	国内外の景況感と企業業績から見れば、日経平均の上値余地はあるが、2018年は昨年に比べてリスクに向き合う場面が増えそう。夏場を過ぎると、消費増税まであと1年となり、国内景気への懸念も出てくる。	ハイテク(半導体・AI)、設備投資
安値	18,000	10月		

	NYダウ	時期	予想の背景、ポイント	注目銘柄・セクター
高値	25,000	3月	好調な経済に加え、減税効果が上乗せされるため相場は上方向への意識が強まりやすい。ただ、減税は本来は景気が良くない時に実施されるもの。経済が過熱し過ぎて利上げペースを速めざるを得ない状況に注意。	ハイテク(半導体・AI)、金融セクター
安値	22,500	10月		

	円(対ドル)	時期	予想の背景、ポイント	ドルや円以外に注目する通貨
高値	106円	10月	基本的には米国金融政策に左右されるが、4月にかけては黒田総裁が任期満了を迎える。	
安値	116円	4月		